

テーマ「初めて投票に臨んで」

戸畑高等学校 村上 佳希

昨年公職選挙法が改正され、十八歳の私にも選挙権が与えられました。私は選挙権が与えられたという喜びとともに、私たち高校生は選挙について詳しく理解できているとは言いきれないのに、有権者になって大丈夫なのだろうか、少し不安になりました。

投票日が近づいたある日、私の高校では北九州市立大学法学部の先生による、選挙についての講義が行われました。一票の大切さについてお話しいただいた後、投票の手順の説明を受け、実際に使用される投票箱を使って模擬選挙を行いました。その他にも、無効票にならないための注意点などを教えていただきました。初めて知ることも多く、その講義のおかげで選挙について詳しく知ることができました。また、実際の投票でも手順を間違えることなく行うことができました。

私は今回の選挙を通して感じたことがあります。まず、立候補者が掲げている公約の中には、私たち高校生には理解するのが難しい言葉があるということです。公民の先生や親にたずねながら理解していきました。次に、立候補者に関する情報の少なさです。誰が立候補しているのか、どのような考えを持っているのかなどの重要な情報が、すぐに手に入りませんでした。私は、インターネットをはじめ様々な手段を使って情報を探しました。私が各候補者の公約を一通り理解し終わったのは、投票の前日でした。テレビの報道番組や新聞などでは、選挙について思っていたほど報道されていない印象を受けました。立候補者の公約などが分からないままでは、安易な投票や投票率の低下につながってしまうと思います。もっと様々なメディアが、各候補者の公約をしっかりと伝えるべきだと思います。

一方で、私たち有権者にも課題はあります。私たちは一票を担う有権者でありながら、政治に関心を持っているとはあまり言えないのではないのでしょうか。国や地方を動かすのは自分ではないので、選挙は自分には関係がないと考える人もいます。私たちがよりよく暮らしていくために、様々な施策を決定していく人たちを選ぶ私たちにも、十分責任はあるはずです。

今回の選挙では、私たちの投票で当選者が決まるのだということを改めて実感し、投票に行ってみてさらにそれを感じました。この体験をした若者は、政治にもっと関心を持ち、今後も積極的に投票に参加するようになると思います。できるだけ多くの有権者に投票に行ってもらうことで政治に参加してもらうためには、選ばれる側も選ぶ側もそれを伝える側も、もっと工夫が必要であることも分かりました。これからも政治や社会に関心を持ち、有権者の一人としての責任感と誇りを持ち続けたいと思います。